

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ぐりーんあっぷる白石教室		
○保護者評価実施期間	2025年4月1日		～ 2026年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年4月1日		～ 2026年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの特性や発達段階を丁寧に把握し、個別支援計画に基づいたきめ細かな支援が提供されており、安心して利用できる環境が整っている点。	日々の打合せや支援記録の共有を通して、児童の状況や支援方針を職員間で統一し、一貫性のある支援が行えるよう取り組んでいる。	地域との関わりが十分とは言えないため、関係機関との連携を強化し、他児との関わりや社会経験の機会の充実を図る。
2	職員間での情報共有やチーム支援体制が確立されており、支援前後の打合せや記録の活用により、一貫性のある支援が実施されている点。	児童の発達段階や特性に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせ、無理なく社会性や生活力を育てる支援を意識して行っている。	家族支援や保護者同士の交流機会に課題があるため、情報提供や相談機会の充実を図り、家庭全体を支える支援体制の強化を進める。
3	保護者との連携が良好で、日々の情報共有や相談対応を通して信頼関係が構築されており、家庭と連携した支援が行われている点。	連絡帳や送迎時のやり取りを活用し、保護者との情報共有を丁寧に行うことで、家庭と連携した継続的な支援につなげている。	安全管理や訓練の実施状況について認知に差があるため、マニュアルや訓練内容の周知方法を工夫し、保護者の安心感向上につなげる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が限られており、他児や地域資源との関わりが十分とは言えないため、社会経験の機会の拡充が課題である点。	地域交流については、安全面への配慮や日々の支援を優先する中で、外部機関との連携や交流機会の計画的な確保が十分に携えていないことが要因である。	地域交流の機会を計画的に設定し、保育所や関係機関との連携を強化することで、他児との関わりや社会経験の機会の充実を図る。
2	家族支援や保護者同士の交流の機会が十分に提供できていないため、家庭全体を支える支援体制のさらなる強化が必要である点。	家族支援については、個別相談や日常的なやり取りが中心となっており、保護者同士の交流や体系的な支援プログラムの実施まで十分に展開できていないことが要因である。	保護者向けの情報提供や交流の場を検討・実施し、保護者同士のつながりや家族支援の充実を図るとともに、家庭全体を支える体制を強化する。
3	安全管理や訓練の実施状況について、保護者への周知や理解にばらつきが見られるため、情報発信の工夫が必要である点。	安全管理に関する周知については、マニュアル整備や訓練は実施しているものの、保護者への説明や情報発信の機会が十分でないことが要因である。	安全管理に関するマニュアルや訓練内容について、通信や説明機会を活用して周知を強化し、保護者の理解と安心感の向上につなげる。